

### 「香取の貝塚」 縄文時代からの ルーツを探る手がかり



城ノ台貝塚出土土器

千葉県は世界的に見ても貝塚の集中が顕著な地域で、古くは明治時代から数多くの調査が実施されてきました。

香取市を含む利根川下流域は、縄文時代のある時期、現在の大小河川域に海水が流入し、大規模な貝塚群が台地上に形成されました。

た。これらの中でも標識遺跡となった阿玉台貝塚（国指定）・良文貝塚（国指定）・下小野貝塚（県指定）などは、全国的にもよく知られています。

縄文時代は、1万2000年前から2300年前の約1万年の期間を指します。が、長期間におよぶことから考古学上は草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分されています。

#### 数多くの貝塚群

縄文時代の貝塚形成の主な要因は、地球の温暖化による海面上昇がもたらした結果であると推察され、一般的には「縄文海進」と呼ばれています。これが最も進行したのが城ノ台貝塚・鶴崎貝塚（市指定）が営まれた縄文時代早期、これに次ぐのは縄文時代中期です。

この縄文時代中期、黒部川を取り巻く洪積世台地には、ハマグリを主体にアカニシ・サルボウ・シオフキ・マガキなどの鹹水産貝種で構成される阿玉台・良文・木内明神・白井大宮台・向油田（市指定）の諸貝塚が作られて、漁撈活動が最も活発だったことを今に伝えています。

すると、この時期に海面が徐々に後退し、現在と同じような沖積地が開けた環境に変化したためと思われる。

**縄文人を知る手がかり**

貝塚は、縄文時代の人がどのような食生活や慣習を持っていたかを知る上で重要な遺跡です。通常の遺跡の場合、関東ローム層が酸性土壌であるため土器や石器以外の物を残しません。貝塚は貝殻のカルシウム分が上層から補給されるため、人骨・獣骨・魚骨などが良好な状態で発見されることが多いのです。

城ノ台貝塚の調査では、埋葬された人骨やイノシシ・ニホンジカ・シカ・イヌ・ニホンサルなどの獣骨、クロダイ・マダイ・スズキ・サメなどの魚骨、さらに骨で作った針・釣り針・ヤスなどが発掘されています。

この香取地域の貝塚が物語るものは、後の奈良時代「香取の海」と呼ばれた広大な湖沼で活躍したであろう、また中世には「海夫」と呼称された漁民たちの原形となったのは、



城ノ台貝塚発掘状況

縄文時代に貝塚を作り続けた人々の系譜からつながってきたのではないのでしょうか。